

平成 25 年 11 月 24 日 (日) 施行

第 172 回 全経簿記能力検定試験 1 級 会計 解説

第 1 問

1. 企業会計原則 第一 一般原則 四
2. 企業会計原則注解 [注 1 - 2]

第 2 問

1. 保証債務額は $¥400,000 \times 1.2\% = ¥4,800$
手形売却損は割引料 + 保証債務相当額 = $¥12,000 + ¥4,800 = ¥16,800$
2. 廃棄処分料を含めた金額を損失として処理する。
3. 試送時に以下の仕訳をしている。(@ ¥4,000,000 × 2 台)

(借) 試用品	8,000,000	(貸) 仕入	8,000,000
---------	-----------	--------	-----------

①このうち、津軽研究所の 1 台は買取の連絡があったので、

(借) 売掛金	5,800,000	(貸) 売上	5,800,000
仕入	4,000,000	試用品	4,000,000

②信濃研究所の 1 台は返送されてきたので

(借) 仕入	4,000,000	(貸) 試用品	4,000,000
--------	-----------	---------	-----------

以上①②を合わせる。

4. 中間配当 ¥800,000 の支払いと $¥800,000 \times 1/10 = ¥80,000$ の利益剰余金の積立を行う。
中間配当積立金 ¥500,000 を充当し、残額の ¥380,000 は繰越利益剰余金から充当する。
5. 社債の利息は $¥5,000,000 \times 2.6\% \times (6 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月}) = ¥65,000$
取得価額は $¥5,000,000 \times (¥97.2 / ¥100) = ¥4,860,000$
償却原価法より、償却額は $(¥5,000,000 - ¥4,860,000) / 5 \text{年} \times (6 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月}) = ¥14,000$
6. \$ 27,500 の買掛金は決算日において $\$ 27,500 \times ¥101 = ¥2,777,500$ に換算されている。
本日の為替レートは ¥98 / \$ より、為替差損益は
 $\$ 27,500 \times (¥101 - ¥98) = ¥82,500$ (為替差益)

第 3 問

		割賦売掛金			
当期首残高	¥34,500,000	¥30,360,000	当期回収分①		
		¥4,140,000	期末残高(前期発生分)		
当期発生額 (売上高)	¥187,580,000	¥149,180,000	当期回収分		
		¥38,400,000	期末残高(当期発生分)		

(2)(3)より期末割賦売掛金残高(当期発生分)は

$$¥42,540,000 - ¥4,140,000 = ¥38,400,000$$

当期の売上利益率は 35% であるから、割賦売上利益控除前売上総利益は

$$¥187,580,000 \times 35\% = ¥65,653,000$$

売上原価は

$$¥187,580,000 - ¥65,653,000 = ¥121,927,000$$

繰延割賦売上利益戻入は、当期に回収した割賦売掛金（当期回収分①）に含まれている利益で、

$$¥30,360,000 \times 30\% = ¥9,108,000$$

割賦売上利益控除は、当期に発生した割賦売掛金のうちの期末未回収高¥38,400,000に含まれている利益なので、

$$¥38,400,000 \times 35\% = ¥13,440,000$$

第4問

問題文より、合併期日における豊後会社の諸資産の時価は286,500千円、諸負債は162,700千円であるから受入純資産額は

$$286,500 \text{ 千円} - 162,700 \text{ 千円} = 123,800 \text{ 千円}$$

である。また、増加資本の額は

$$2 \text{ 千円} \times 64,000 \text{ 株} = 128,000 \text{ 千円}$$

である。また、このうち2分の1を資本金とし、他を資本準備金とするので、合併仕訳は以下のとおりとなる。

(借) 諸 資 産	286,500	(貸) 諸 負 債	162,700
		資 本 金	64,000
の れ ん	4,200	資 本 準 備 金	64,000

第5問

[資料2] 検討事項

1. 未処理事項

(借) 現 金	30	(貸) 受取配当金	30
当 座 預 金	140	買 掛 金	140

2. 仮払金の内訳

(借) 建設仮勘定	800	(貸) 仮 払 金	4,530
退職給付費用	450		
仮払法人税等	1,020		
仮払消費税	2,260		

3. 仮受金の内訳

(借) 仮 受 金	2,850	(貸) 仮受消費税	2,850
-----------	-------	-----------	-------

消費税の処理→【問2】

(借) 仮受消費税	2,850	(貸) 仮払消費税	2,260
		未払消費税	590

4. 期限が1年超の定期預金の長期預金への振り替え

(借) 長 期 預 金	1,750	(貸) 定 期 預 金	1,750
-------------	-------	-------------	-------

〔資料3〕 決算整理事項

1. $11,250 \text{ 千円} \times 1.2\% = 135 \text{ 千円}$

差額補充法より、貸倒引当金繰入額 $135 \text{ 千円} - 30 \text{ 千円} = 105 \text{ 千円}$

(借) 貸倒引当金繰入	105	(貸) 貸倒引当金	105
-------------	-----	-----------	-----

2. 売買目的有価証券の評価替え

日光会社株式 $(3.6 \text{ 千円} - 4.2 \text{ 千円}) \times 500 \text{ 株} = \Delta 300 \text{ 千円}$

信濃会社株式 $(7.4 \text{ 千円} - 6.8 \text{ 千円}) \times 200 \text{ 株} = 120 \text{ 千円}$

(借) 有価証券評価損	180	(貸) 有価証券	180
-------------	-----	----------	-----

3. 期末商品の評価

@7.6 千円 @10.3 千円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;">商品評価損なし</td> <td rowspan="2" style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">棚卸減耗費</td> <td rowspan="2" style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a 商品</td> </tr> </table>	商品評価損なし	棚卸減耗費		a 商品	商品評価損 正味売却価額 > 取得原価 ⇒ 商品評価損なし 棚卸減耗費 $@7.6 \text{ 千円} \times (470 \text{ 個} - 460 \text{ 個}) = 76 \text{ 千円}$
商品評価損なし	棚卸減耗費					
a 商品						
@8.5 千円 @11.6 千円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;">商品評価損なし</td> <td rowspan="2" style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">棚卸減耗費</td> <td rowspan="2" style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">b 商品</td> </tr> </table>	商品評価損なし	棚卸減耗費		b 商品	商品評価損 正味売却価額 > 取得原価 ⇒ 商品評価損なし 棚卸減耗費 $@8.5 \text{ 千円} \times (390 \text{ 個} - 380 \text{ 個}) = 85 \text{ 千円}$
商品評価損なし	棚卸減耗費					
b 商品						
	460 個 470 個 380 個 390 個					

帳簿棚卸商品

a 商品 $7.6 \text{ 千円} \times 470 \text{ 個} = 3,572 \text{ 千円}$
 b 商品 $8.5 \text{ 千円} \times 390 \text{ 個} = 3,315 \text{ 千円}$

} 6,887 千円

棚卸減耗費… $76 \text{ 千円} + 85 \text{ 千円} = 161 \text{ 千円}$

(借) 仕入	6,640	(貸) 繰越商品	6,640
繰越商品	6,887	仕入	6,887
棚卸減耗費	161	繰越商品	161

4. 貸付金の利息

平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 9 月 30 日まで (6 ヶ月) の利息が当期の受取利息である。
 ただし、期限に元金とともに受け取るので、未収収益として処理する。

$2,000 \text{ 千円} \times 3\% \times (6 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月}) = 30 \text{ 千円}$

(借) 未収収益	30	(貸) 受取利息	30
----------	----	----------	----

5. 減価償却

建物 (定額法) 残存価格ゼロ

$(12,800 \text{ 千円} - 0 \text{ 円}) / 40 \text{ 年} = 320 \text{ 千円}$

備品 (定率法) 4,980 千円のうち 600 千円は当期 6 月 1 日に取得のため、備品は①4,380 千円と②600 千円に分かれる。このうち②は当期取得であるから備品減価償却累計額はすべて①に関するものである。

① $(4,380 \text{ 千円} - 2,340 \text{ 千円}) \times 0.250 = 510 \text{ 千円}$

② $600 \text{ 千円} \times 0.250 \times (4 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月}) = 50 \text{ 千円}$

備品減価償却費は①+②=560 千円

(借) 減価償却費	880	(貸) 建物減価償却累計額	320
		備品減価償却累計額	560

6. 商標権の償却

商標権は前期に取得し、すでに8ヶ月分が償却されているので残高試算表上の金額1,120千円は残り112か月分の金額である。よって償却額は10千円/月なので、当期は

(借) 商標権償却	120	(貸) 商標権	120
-----------	-----	---------	-----

7. 退職給付の積立

(借) 退職給付費用	624	(貸) 退職給付引当金	624
------------	-----	-------------	-----

8. 保険料640千円のうち、4か月分は未経過期間に対するものなので

40千円×4ヶ月=160千円

(借) 前払費用	160	(貸) 保険料	160
----------	-----	---------	-----

9. 法人税の計上

仮払法人税等が1,020千円あるので

(借) 法人税等	2,210	(貸) 仮払法人税等	1,020
		未払法人税等	1,190